

泉大津市における家庭教育支援活動 訪問型家庭教育支援活動について

スマイル・サポートチーム(大阪府泉大津市)

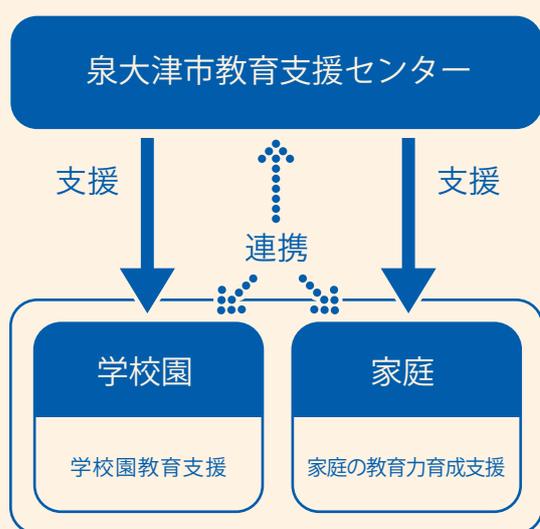
「家庭教育支援チーム」の創設

本市の教育支援センターでは「学校園の教育支援」と「家庭教育力育成支援」をその設立目的の2本柱としている。

「家庭教育力育成支援」としては、教育支援センターの専門相談員による来所型教育相談や電話相談(心の相談ホットライン)など、子育ての悩みについての相談支援を行っているほか、保護者を対象とした子育てカウンセリング研修会なども実施している。なかでも、特徴的な取組として、カウンセラー資格を有する地域人材を「家庭教育支援サポーター」として活用しての家庭訪問などによる相談支援活動があげられる。

従来の保護者の相談支援としては、専門相談員やスクールカウンセラーによる来所型の相談支援を行ってきた。しかし、家庭教育への関心が低い保護者や、子育てやしつけに悩みや不安を抱えながらも、相談に訪れる時間のない保護者の増加への対策が必要であった。そこで、保護者の心のサポート、子育ての支援をより直接的・機動的に、訪問型支援として行う「家庭教育支援チーム」を創設することとなった。

この「家庭教育支援チーム」は、親子関係の複雑化・多様化に伴う様々な問題(いじめ、不登校、家庭内暴力、非行、虐待等)に関連し、家庭および児童・生徒に対して、直接的な関わりによる相談支援を進めている。



教育支援センターにおける家庭・学校園支援



家庭教育支援リーダー 芦澤 万里子 カウンセラー

「家庭教育支援チーム」による支援

「家庭教育支援チーム」の支援の展開にあたっては、学校園はもとより、教育支援センターの専門相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家や元教育関係職員、学生ボランティアとも連携し、ケース会議による情報の共有とアセスメントに基づいた個別の支援プログラムを作成し、役割の分担を行っている。また、ケースによっては、子ども家庭センターや泉大津市要保護児童対策協議会などの関係機関とも連携を図っている。

学校園の教職員とは異なる立場にある「家庭教育支援サポーター」による支援活動は、課題のある家庭の訪問活動を行い、寄り添いながら、様々な悩みを聞くところから始まる。訪問活動を継続していくと、やがて保護者は本音を出せるようになり、ストレスが軽減され、サポーターとの信頼関係が生まれ、現実の問題と向き合うことができるようになる。

さらに、保護者にとっては、家庭生活や子どもの状況の良い変化をサポートや学校園の教職員に認められることにより、子育てに対する自信・喜びを感じることにつながる効果も期待できる。

このように、家庭教育支援の取組では、保護者や子どものエンパワメントによる成果がみられている。

「家庭教育支援サポーター」による支援の一例

ケース1

保護者が精神的に不安定で子どもが不登校になっていた状況のなか、「家庭教育支援サポーター」が家庭訪問を実施し、直接的な保護者支援を継続した。その結果、保護者が家庭生活を立て直すことができ、子どもの表情も明るくなり、毎日元気に登校できるようになった。

ケース2

遅刻を頻繁に繰り返していた子どもに対して、「家庭教育支援サポーター」が家庭訪問による登校サポートを実施した。その結果、子ども自身が起床、登校準備などの基本的な生活習慣を身につけ、ひとりで登校できるようになり、保護者の生活も良い方向に変化する効果が生じた。

取組の成果.1

「家庭教育支援チーム」が直接的で継続的な家庭支援を行う成果として、保護者や子どものエンパワメント効果が大きいことを紹介したが、それ以外にもいくつかの成果がみられる。

「家庭教育支援チーム」による支援のなかには、兄弟姉妹が多校種にまたがるケースも多くみられる。このようなケースでは、サポーターどうしの会議(サポーターサポート会議)や関係機関を含めたケース会議により、連携が強化され、支援の効果が校種をまたいで波及したケースもあり、校種間、関係諸機関の支援連携もモデルとなるような成果がみられている



サポーターサポート会議

取組の成果.2

学校園とともに課題解決を行う際に、教職員ではない「家庭教育支援サポーター」が家庭にかかわることから、学校園と家庭をつなぐ潤滑油としての役割を果たしていることや、教職員が家庭訪問を実施しにくい時間帯に保護者や子どもに対するタイムリーな支援を行えることも成果としてあげられている。

取組のポイント.1

教育支援センターを拠点とした、関係諸機関との連携強化を図る環境づくり

起こりうる様々なケースに対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家や関係諸機関との情報共有・連携を推進することが大切である。そのうえで、役割分担を明確にするとともに、様々な角度から家庭支援アプローチをする必要がある。

取組のポイント.2

幼児期における家庭教育支援が大切

子育ての根っこが幼児教育にあると言われ、幼児期の家庭教育が重要であることから、幼児がいる家庭を中心に「家庭教育支援サポーター」等による訪問活動の他、保護者の学習機会を提供する必要がある。



子育てカウンセリング・親の会

被災地の家庭教育関係者及び被災された方へ

このたびの東日本大震災で亡くなられた多くの方々に深く哀悼の意を表し、被災された多くの方々にお見舞い申し上げますとともに、被災地の一刻も早い復興をお祈りしております。また、被災地で復興にたずさわっておられる多くの方々に深く敬意を表します。

子どもたちのなかには、周囲の大人を勇気づけるため無理に明るく気丈に振る舞っている子どもも大勢いることだと思えます。この悲しみを乗り越え、子どもたちが笑顔で過ごせるよう、いままで以上の関わりと温かな人と人の触れあいを大切にしてほしいと思えます。

子どもたちが楽しく遊び、学び、そして安心して笑顔でいられるよう、私たちも応援しています。

チーム名：泉大津市家庭教育支援チーム
(呼称：スマイル・サポートチーム)

活動開始：平成17年4月～

活動人数：12人

活動内容：訪問型による教育相談活動及び家庭教育支援活動

どのような人が活動しているか：カウンセリング資格を有する地域人材

団体住所(連絡先など)：泉大津市教育支援センター
大阪府泉大津市戎町3-41 TEL：0725-31-4460